

米国の新型の核性能実験に抗議する決議

核兵器の廃絶は、最初の被爆国である日本をはじめ、今や全世界の人類共通の願いとなっている。

しかしながら、米国政府は、昨年11月と今年3月に新型の核性能実験を実施した。

今回の新型核実験は、環境負荷に配慮して屋内実験としたとされているが、平和都市宣言を行った札幌市において、本市議会は、これまでも核保有国が臨界前核実験及び地下核実験を実施した際に抗議の決議を行ってきた。また、米国政府に対しても、再三にわたって臨界前核実験の停止を求める決議を行い、これを送付してきた。さらに、オバマ大統領に対しても、昨年10月に臨界前核実験に抗議する決議を送付したばかりである。それにもかかわらず、今回の核性能実験を強行したことは、「核兵器のない世界」を目指すとした演説とも矛盾し、極めて遺憾である。

よって、本市議会は、米国政府に対し、新型の核性能実験の強行に抗議するとともに、核兵器廃絶と核実験中止を求める国際世論を真摯に受け止め、今後、いかなる核実験も恒久的に行わないよう強く求めるものである。

以上につき、決議する。

平成23年（2011年）6月17日

札幌市議会

（提出先）アメリカ合衆国バラク・オバマ大統領

（提出者）全議員